

**問** 市民に寄り添う取組は

様々なボランティア活動で、市に貢献する人々がいる。表彰や感謝を伝える機会を持ってないか。また、フクチン予約でデジタル活用の格差が顕著になった。デジタル弱者に研修を行い、支援サポーターを認定し、使える人を増やす取組をしてはどうか。

**答** 市民に寄り添う取組を推進する

市やコミュニティセンターのホームページ等で、様々な活動を取り上げ、感謝を伝えていく。デジタル機器に不慣れな皆様のサポートができるようコミュニティセンターと連携し、パソコンやスマートフォン講座を開催するなど積極的に支援していく。



菱沼あゆ美 議員  
(公明党)

**問** 想定浸水深シールで水害の備えを

豪雨などによる災害リスクの周知と認識が重要である。ハザードマップ情報に沿った想定浸水の深さを示すシールや看板を、防災行政無線や公共施設などに掲示し見える化する取組がある。リスクを日頃から意識してもらい、水害の備えに役立たせてはどうか。

**答** 河川管理者と連携し取組内容を検討する

国土交通省では、水害等における浸水の深さや避難所などに関する情報を表示する取組について、河川管理者と市町村の役割分担を明確にするためのアンケート調査を実施している。この調査を基に、今後、河川管理者と連携を図りながら取組内容を検討していく。



想定浸水深看板

**問** コロナ禍での次年度の税収確保の状況は

コロナ禍で次年度の個人市民税や法人市民税の税収確保は難しいと考えるがどのように捉えているか。また、市内の法人の倒産や事業廃止はないか。更に法人の収入はどのように捉えているか。

**答** 今年度以上に厳しくなると予想している

コロナ禍の影響の長期化により来年度の税収は今年度以上に厳しくなると予想している。今年度の法人の廃止や休業件数は昨年同時期と比べ減少しているが、一部の業種で当初の見込みより税収が減少しており、来年度の歳入予算額も減少すると見込んでいる。



中川幸廣 議員  
(白岡ビジョン)

**問** 市長が考える公助・自助・共助について

市長が考える公助・自助・共助とは。また、近時の市の予算では扶助費が増大し公助の予算が抑制される傾向にあると考える。そのような状況下での次年度予算案への反映は。更に第6次総合振興計画への反映はいかなような内容か伺う。

**答** 自助・共助・公助の充実を図っていく

自助・共助・公助の役割を果たせるよう、来年度予算の編成を行い、防災施策の基本理念である「市民の力、地域の力を結集し、みんなで取り組む防災減災のまちしらおか」の実現につなげていく。また、これらの役割を第6次総合振興計画の目標として設定する。

